



交流の輪ひろげよう

Ring

Ring

# りんぐりんぐ

第56号  
VOL.56

八戸国際交流協会

Hachinohe International Relations Association

平成28年8月発行

Published March 2016

とうせんきょう

## 投扇興で日本文化を体験したよ！



平成28年6月5日(日)

第5回ジャパン・デー・イン・八戸を開催しました。

今回は、市内及び近郊に暮らす外国人向けに、日本古来の的当てゲームである投扇興とうせんきょうの体験と、酒蔵見学を行いました。

普段の生活ではなかなか体験できない日本文化を、全身で感じる事ができた1日となりました。

→詳しい内容については、2～3ページをご覧ください。

交流するともっと  
わかる世界のこと。

### Index

- P2～3… ジャパン・デー・イン・八戸
- P4 …… 外国人のための防災教室
- P5 …… 蘭州市教員と種差小の交流会
- P6～7… 八戸工業大学第二高等学校  
国際交流活動紹介

- P8～9… 八戸工業大学 国際交流活動紹介
- P10… 国際交流員マッシュのコーナー
- P11… HIRA からのお知らせ
- P12… 準会員募集

# ジャパン・デー・イン・八戸 投扇興体験 & 酒蔵見学



平成28年6月5日(日)、今年で5回目になる「ジャパン・デー・イン・八戸」を開催しました。今回は投扇興の体験と酒蔵見学を行い、投扇興は投扇興を楽しむ会「はなみずき連」、酒蔵見学は八戸酒類株式会社八鶴工場からご協力をいただきました。場所は南部会館と八戸酒類株式会社八鶴工場です。当日は、ALT(外国語指導助手)や留学生などの外国人9名と日本人7名が参加しました。



## 投扇興って？

投扇興は、江戸時代の中期からの遊びで、「枕」と呼ばれる台の上に立てられた「蝶」と呼ばれる的に向かって扇を投げ、扇・蝶・枕によって作られる形を源氏物語のタイトルに見立てた得点で競う遊びです。的に当てるだけでなく、源氏物語のタイトルに見立てる所に日本文化の趣が感じられます。



持ち方を教える銀扇さん

## 投扇興体験

最初に「はなみずき連」の実演を見てから、扇の持ち方を習い、扇を投げる練習をしました。的までの距離は162cmあり、最初は届かない方が多かったようです。練習を一通り終わると、いよいよ試合です。試合は2人向き合って、10回投げた合計点で競います。練習の成果もあってか、16点、20点と合計点を出す参加者たち。その後、合計点が高い上位4名で決勝戦が行われました。決勝戦では、普段なかなか見ることができない真木柱<sup>まきばしら</sup>で、30点を出し合計45点となった外国人参加者が優勝しました。なお、当日は「はなみずき連」のお師匠さんで、東浅草・其扇流名取<sup>きせんあん ぎんせん</sup>の其扇庵 銀扇さん(八戸市出身)が東京から駆けつけ、お手本を見せてくれるなど大活躍でした。



うまく当てるコツは？

## 参加者にインタビュー

- ・日本の文化を理解したいと思って参加した。説明を聞いたときは簡単だと思ったが、実際にやってみると難しく、的に当たったときはアメージングだった。
- ・練習では、扇の持ち方、投げ方が難しく、ストレスがたまりイライラしたが、試合でゲームを楽しもうと思って投げたら、的に当たりすごく嬉しかった。



よく、ねらって投げたら



まきばしら  
奇跡の真木柱！



皆さん笑顔、楽しかったね



八鶴工場に到着

## 酒蔵へ移動

投扇興体験の次は、酒蔵見学です。南部会館から八戸酒類株式会社八鶴工場まで、徒歩で移動しました。ある参加者は「試飲楽しみ！いっぱい飲むぞー」と言って、張り切って歩いていました。

## 八鶴

八鶴工場で案内をしてくれた方は、杜氏の加藤さんです。八鶴の創業は天明6年(1786年)で、11代将軍の徳川家斉の時代になります。現在の建物は、大正時代に建てられたもので、大きな地震に何回か見舞われましたが、現在も工場として使われています。



工場の中



江戸地代の酒造りの絵

## 日本酒の造り方

工場の階段を登って2階に上がると、江戸時代の酒造りの様子を描いた絵が飾ってあり、この絵の中に酒造り製造工程がすべて描かれているとのことでした。絵には、①米を研ぐ、②米を蒸す、③米を乾かす、④仕込む、⑤搾るの5つの工程が描かれており、この工程は今も変わらないそうです。

## 試飲

工場見学も終わり、いよいよ、参加者の皆さんが待ちに待った試飲タイムです。この日、加藤さんは二種類のお酒を用意してくれました。

### ～一杯目～八鶴濃醇超辛純米酒剛酒

一杯目のお酒は、超辛口の純米酒で食事に合うというお酒です。一般的な日本酒度は+3程度で、プラスの度合いが高いほど辛口になります。このお酒は+10で、実際に飲んでみると、すっきりしたまさに辛口で食事に合うという説明に納得です。

### ～二杯目～八鶴大吟醸

二杯目のお酒は、鑑評会出品用の甘口の大吟醸で、普段手に入らない代物だそうです。このお酒は圧力をかけず、自然の重さだけでしたり落ちていたもので造られているようで、口に含むとまろやかな香りが広がり、甘みをおいしく感じられるお酒でした。

感想を聞いてみると「すごくおいしい、今まで飲んだ日本酒は何だったのだろう。」「お酒からパンを焼く前の匂いがした。後味がすごくいい。」などと好評で、隣接するショップでたくさんの方がお酒を買っていました。

楽しく過ごしたジャパン・デー、「はなみずき連」のみなさん、銀扇さん、八鶴の加藤さん、ありがとうございました。ジャパンデーの様子は、国際交流協会のホームページ(<http://hachinohe-hira.jp/>)でも紹介していますので、そちらも見てくださいね！



もう少し、注いで？



違いの分かる酒飲みたち



# 外国人のための防災教室



平成28年6月26日(日)、今年で4回目となる外国人のための防災教室を、八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部との共催で開催しました。今回は「防災講座」「身近な物を利用した応急処置」「初期消火訓練」「起震車体験」を行い、中国やベトナムからの企業実習生や、中国人留学生など全部で17名の外国人が参加しました。

## 【防災講座】

八戸市防災危機管理課の杉浦さんを講師に迎え、地震や津波、火事について学びました。



熱心に説明する杉浦さん



## 【身近な物を利用した応急処置】

八戸消防署の方から、ストッキングを包帯にして止血する方法とレジ袋を三角巾にする方法を教わりました。



ストッキングで包帯



レジ袋で三角巾

## 【初期消火訓練】

水消火器を使つて的を狙う訓練



やったあー、命中

## 【起震車体験】

起震車は東日本大震災、関東大震災、新潟中越沖地震の揺れを再現できます。外国人参加者にとって初めての震度7は忘れられない体験だったようです。



かなり揺れています！



## 【参加者の声】

「ベトナムでは地震がなく、八戸でもまだ地震を経験したことがなかった。起震車は怖かったが、津波が起きることや避難の方法を教わり、勉強になった。」

「中国でも地震を経験しているが、今日の起震車の震度7はたいへん貴重な体験だと思う。地震をあまり知らない外国人は体験すべき。」

今年の4月の熊本地震では、ほとんどの外国人が「自分が避難所に行つていいものか」という気持ちを抱えていたそうです。災害時は、日本人も外国人も関係なく、お互いに助け合うことが必要です。そのためには、普段からお互いに交流することが大切ではないでしょうか。

おいしいですよ  
**很好吃!**



## 「種差らしいお菓子」を中国語でアピールしよう!

～種差小の児童がお菓子販売のための中国語を学びました～

平成28年5月20日、中国蘭州市教員との交流会が種差小学校で行われました。

児童たちはお菓子販売をテーマに、観光客へ中国語でアピールする方法を熱心に学びました。

種差小学校では、平成26年から種差らしいお菓子作りに励んでおり、児童たちのアイデアで完成したお菓子は、今年の1月から実際に販売されています。



近年中国人を始めとした外国人観光客が、種差海岸を訪れることが多くなっています。児童たちが種差海岸インフォメーションセンターでのイベントでお菓子を販売した際、中国人来場者とうまく会話ができなかったことから、今回の交流会が企画されました。



種差小学校を訪れたのは、教員相互派遣交流事業で八戸を訪問していた、友好都市・蘭州市の英語教師の劉小萍(リュウシャオピン)さんと、数学教師の朱鑫玉(ジュウシシユ)さん。

交流会では、お菓子を販売する際に使える挨拶や、商品の紹介に関する接客用語を劉さんと朱さんから教わりました。

挨拶はもちろんのこと、「3種類、4個入り、680円です」、「これは、海藻などを使ったお菓子です」、「おいしいですよ」など、大人でも覚えるのが難しい中国語を覚える児童たち。

児童たちが覚えたての中国語を使い、劉さんや朱さんを相手に、お菓子販売の寸劇を行い、お菓子はそのまま二人にプレゼント!

この交流会は児童たちにとって、とてもいい経験になったことでしょう。



## 国際交流活動紹介

# 八戸工業大学第二高等学校

工大二高の主な国際交流活動として、JENESYSの日本訪問団受け入れ、オーストラリア研修、イングリッシュビレッジ、中国研修などがあります。

## ◆ JENESYSの日本訪問団受け入れ

工大二高では、一般財団法人日本国際協力センターの青年交流事業(JENESYS)に参加し、アジア各国からの日本訪問団を受け入れています。これまではブルネイ、中国、フィリピンから訪問団を受け入れました。

訪問団は日本滞在中、各生徒の家にホームステイします。最初は難色を示していた家族も、実際にホームステイが終わると「楽しかった」という言葉が一番にでてくるのだそうです。ホームステイには受け入れてみて初めて分かることが多くあり、生徒達はもちろん家族も良い経験をしているのではないのでしょうか。

## ◆ オーストラリア研修

オーストラリア研修は学校単独の交流活動です。ホームステイしながら地元の高校の授業に参加します。中にはコミュニケーションがうまくいかず、泣いてしまう子もいましたが、色々な経験を積んでたくましくなって帰ってきます。研修後の生徒は英語能力が向上し、そして英語に対する拒絶心も少なくなっていると感じるそうです。

このような経験を積んだ生徒たちは、人前で研修結果の報告を自らが使える英語を使って行います。

## ◆ イングリッシュビレッジ参加

秋田にある公立国際教養大学で毎年1回開催されるイングリッシュビレッジにも参加しています。

「英語を使ったプレゼンテーションができるようになる」という最終目標のもと、大学生達に協力を得ながら朝から晩まで英語漬けの生活を過ごします。

これに参加した生徒達は、英語を話すことに対して度胸がつき、英語力が飛躍的に伸びるそうです。



JENESYS日本訪問団と  
工大二高の生徒たち



オーストラリア研修に  
参加した生徒たち

## 中国研修を振り返って

濱端 朋美さん



中国に行ってイメージとのギャップに驚きました。食べ物は美味しく、きれいで大きな建物もあって個人的に旅行で来たいなと思いました。

一番印象に残ったのは、語学研修をした大学の前に毎晩出店する露店でした。大規模で列の終わりが見えない程続いているそれは、綿飴やタコス、衣服や履き物など様々なものが売られていてとても賑わっていました。私はそこで花の形に作られた綿飴を買って食べましたが、味は日本のものと変わらないものでした。とてもカラフルだったので色々な味がするだろうと想像していたのですが期待を裏切られて少々残念でしたが、とても美味しくいただきました。

言葉の壁や習慣の違いに驚いたり、困惑したりと大変なこともたくさんありましたが、それ以上に、新しい友人ができ、自分の世界を広げることができたと思っています。

今回の研修では広大な中国という国のほんの一部しか見ていませんが、いつかあの広く大きな中国全部を見ることができたらいいなと思います。



中国研修に参加した濱端さん(前列右から2番目)

## オーストラリアで学んだこと

向井田 和希さん



私はオーストラリアで短期間の海外研修をし、現地ではしか学べない沢山の事を学びました。

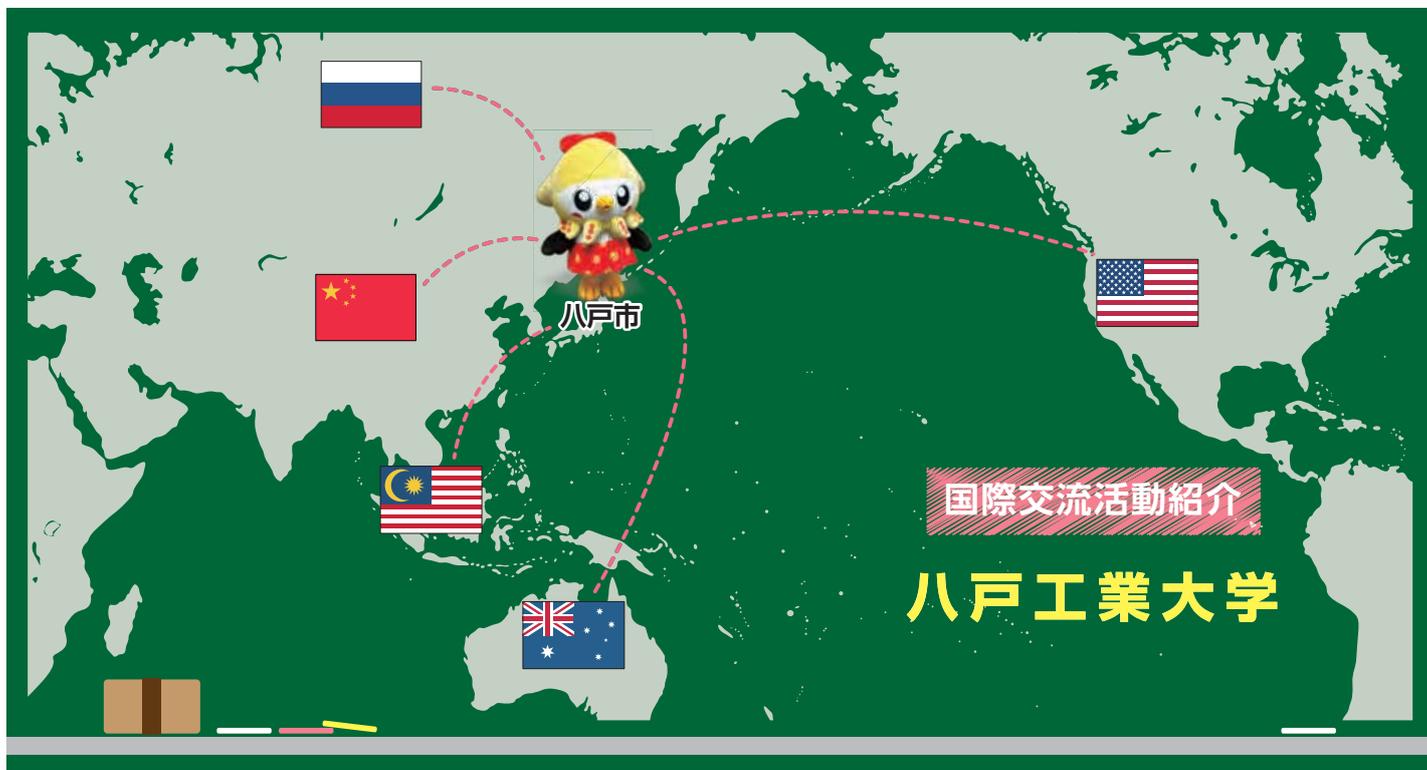
まず、オーストラリアはアメリカなどと同じように多民族国家で、オーストラリア系の人もいれば、ヨーロッパ系やアジア系の方々もいました。しかし、オーストラリアの先住民のアボリジニなどの人種差別は根強く残っていました。私のホームステイ先の家族も差別をしていました。また、アボリジニの人口は減少し、文化が徐々に廃れてきています。もっと人種差別を払拭する必要があると思いました。

また、日本の文化もオーストラリアに入り始め、ショッピングモールには日本食の店があったり、特に日本のアニメが人気でした。そして、オーストラリアの高校では外国語の授業でフランス語や中国語以外に日本語も教えているようです。このことを知り、私は母国の日本を誇りに思いました。

最後に、オーストラリアは自然が雄大で、動物も沢山存在していてとてもよい国でした。その一方、人種差別がまだ根強く残っていて、アボリジニの人々の居場所が変わり、生活様式も変わりつつあります。私は人種差別の怖さを実感すると同時に、世界平和を実現するためには、このような民族問題を払拭しなくてはならないと思いました。



オーストラリア研修に参加した向井田さん(最後列左から2番目)



八戸工業大学の国際交流活動は、**技術交流**が主となります。中国の瀋陽工業大学、新疆大学、米国のウェスレー大学、ロシアの太平洋国立大学と交流協定を結んでいます。また学生の語学研修は、中国の瀋陽工業大学及びオーストラリアの南クイーンズランド大学で実施しています。

中国の大学から延べ52名の留学生が八戸工業大学で勉強しており、博士号を取得していきます。残念ながら、彼らは実験や論文作成に忙しく、なかなか八戸市民と交流する機会がありません。しかし八戸工業大学の学生が中国研修へ行った際は、この留学生たちが滞在中に色々と面倒を見てくれます。

ちなみに昨年度は、マレーシア訪問団23名が八戸工業大学を訪問し、文化交流及び各学科の状況を見学してきました。

また、原子力エネルギーや放射線について履修する「原子力工学コース」では、海外から勉強に来る学生がいます。本年度についてはカザフスタン及びマレーシアから勉強しに来る予定です。



マレーシア訪問団が来た時の様子



八工大で勉強した留学生との会食



写真上 小笠原さん、写真前列左から奈良さん、西村さん、原田さん

八戸工業大学の英語サークル「English研究会」では、外国人とコミュニケーションを取れるまでのレベルになることを目標とし、活動を行っています。今回取材に協力してくれたのは、部長の小笠原さん(4年生)、副部長の奈良さん(2年生)、部員の西村さんと原田さん(2年生)。この日はちょうど部員が集まる定例会の日でした。

2～3年前から活動していたとはいえ正式に愛好会として立ち上がったのは平成27年11月と、誕生して間もないEnglish研究会。毎週火曜日の定例会を中心に活動を行い、主に市販されている瞬間英作文やカードゲームなどの教材を用いて英語を勉強しています。お互いに意見を出し合いながら答えを探す作業は、難しいながらも英語力向上に役立っていると感じているそうです。

またEnglish研究会の西村さんは、JENESYS(一般財団法人日本国際協力センターの青年交流事業)の企画でマレーシアに1週間滞在しました。滞在中は日系の自動車工場や大使館を訪問したり、現地の大学生と交流したりと、マレーシアでしかできない体験をした西村さん。イスラム教、仏教、ヒンドゥー教など異なる宗教が存在するマレーシアでは、大学構内にお祈りする場所が設けられていたそうです。日本とは違い、毎日お祈りするのが当たり前の文化に驚いた西村さんにとって、マレーシアの滞在は貴重な体験となったのではないのでしょうか。

English研究会では英語の勉強のみならず、今後の活動としてタイ旅行も考えているのだとか。これからさらに英語力を磨いて、日本と海外との橋渡しができるようにがんばってほしいですね！

### 【西村さんがマレーシアに行った時の様子】



ブルーモスクの前にて



クアラルンプール・シティー・ギャラリーの前にて



国際交流員(CIR)  
マシューの  
コーナー!

5月上旬、厳島神社の新しい鳥居二つの再建式典が大久喜港で行われました。

In early May a ceremony was held in the Okuki port for the unveiling of two newly reconstructed Torii for the Itsukushima Shrine.



計り知れないほどの破壊力で、甚大な被害をもたらした平成23年の東日本大震災。大久喜港にある厳島神社も例外ではなく、神社にある鳥居2つが津波で破壊されました。誰もがその鳥居の残骸は海に流され、消えてしまったのだと思っていました。しかし2年後、鳥居は太平洋のはるか向こうで発見されることになるのです。

When the terrible tsunami struck eastern Japan in 2011, along with the immeasurable damage that it wreaked on the east seaboard of Japan, it also destroyed two gates that had adorned the approach to the Itsukushima Shrine in the port of Okuki. The debris was swept out to sea and the gates considered lost. But miraculously enough the torii gate pieces would be discovered two years later, all the way on the other side of the Pacific Ocean.

ある日、アメリカ・オレゴン州の海辺で大きな流木が2つ発見されました。発見された笠木は、津波によって破壊された鳥居のものであることが判明し、帰るべき場所が見つかります。オレゴン州にある、ポートランド日本庭園の尽力により、一旦返還された笠木は、八戸での確認と展示が行われたあと、修復作業のため洋野町へ送られました。そして、笠木は厳島神社の新しい2つの鳥居の一部となり、ようやく里帰りができたのです。

One day, two large pieces of drift wood washed ashore on the beaches of Oregon State. As it was soon discovered, these were the two lintels, called kasagi, from the two torii gates that had been destroyed in the tsunami, and it was able to be determined which gates they belonged to. Through the efforts of Portland's Japanese Garden Society of Oregon, the torii lintels were shipped back to Hachinohe, to be displayed and reconfirmed as the correct Kasagi pieces, and then sent to Hirono to be restored, and finally returned to their original shrine to take their rightful place atop two new torii gates for the Itsukushima Shrine.

オレゴン州から八戸に笠木が到着した際、私は幸運にも笠木の取り出し作業を手伝うことができました。また笠木の復元を祝うセレモニーに立ち会う機会にも恵まれました。真新しい鳥居や目の前に広がる海の美しさ、セレモニーを祝福するためバックコーラスとして参加するうみねこの鳴き声以上に私が驚いたのは、両国のコミュニティ意識、友情、誇りです。国際関係は国・国民のレベルにおいて、ときに複雑に絡み合います。しかし2つの国が気持ちを1つにし、同じことに対して共に力を合わせて行うとき、私はお互いの国の将来に対し希望をふくらませます。そして今回のような素晴らしい出来事を、2つの国が共有することができて大変嬉しく思っています。

I was fortunate enough help unload the torii gates' lintels when they were brought to Hachinohe from Oregon State before their restoration, and fortunate enough to witness the ceremony held to officiate their reconstruction. Truly what was more amazing than the brand new gates, the beauty of the ocean in the foreground, and even the flocks of Hachinohe's own black tailed gulls, who also joined in the ceremony to provide a wonderful chorus in the background, was the sense of community, friendship, and pride. International relations can be complicated on both a national level and personal level for citizens of any country. But when two communities can join together and work towards a common goal with such unity, I am filled with hope for the future of our two nations, and gratitude that these two communities could complete such an admirable task together.



再建式典当日は、来日していた両親と大久喜港に新しい鳥居を見に行きました。



# HIRAからのお知らせ

## 第6回 国際交流フェスタinはちのへ

今回で6回目の開催となる「国際交流フェスタ」は、様々な国の文化に触れることができるイベントです。今年は各ブースを回るスタンプラリーを実施します(景品あり!)。是非遊びに来てくださいね。

- 日 時 8月28日(日) 午前11時~午後4時
- 場 所 「はっち」1階はっちひろば ほか
- 内 容 ①各国文化紹介および交流ブース  
②ステージパフォーマンス(オープニングコーラス、外国人による日本の歌 のど自慢など)  
③フェアトレード紹介、飲食販売ブース出店  
④協会活動紹介&クラフトコーナー



※当日、中心街では「はちのへホコテン」が開催されており、交通規制がありますので、ご来場の際はご注意ください。

## 八戸国際交流協会会員募集!

八戸国際交流協会の会員を募集しています。当協会は、地域の国際交流や、多文化共生社会の推進を目的として活動しており、会員の皆様の会費によって運営されている団体です。

年会費 個人1口 2,000円 団体1口 10,000円

- 会員の特典
- 協会発行機関紙「りんぐりんぐ」をお届けします。
  - 協会主催国際交流イベント情報をいち早くお届けします。
  - 協会主催のイベントや外国語講座では会員割引等の特典があります。



## 八戸国際交流協会ボランティア募集!

当協会は、国際交流活動に参加していただけるボランティアを募集しています。ボランティアとして登録できる方は、**18歳以上**で、次に掲げる条件を満たす方です。

- 条 件 八戸市内に住所を有する方(市内の事業所及び大学に通勤通学している方を含む)  
国際交流に対する理解及び熱意がある方
- 活動内容 通訳、翻訳、ホームステイ・ホームビジット受入、ツアーガイド、国際交流イベントの企画・従事など



## 外国人のための日本語講座

当協会はNPO法人みちのく国際日本語教育センターに委託して、外国人のための日本語講座を開講しています。会話を楽しみながら、日本語コミュニケーション力を高めましょう。

- 日 程:平成28年4月5日(火)~平成28年7月12日(火)の毎週火曜日
- 時 間:午後6時30分~午後8時30分
- 場 所:八戸市福祉公民館(類家)
- 対 象:八戸市近郊在住の外国人(レベル別にクラスに分かれます)
- 受講料:時期により異なるのでお問い合わせください。

【お問合せ】  
NPO法人 みちのく国際日本語教育センター  
馬 場 080-6051-3109  
np0-mijec@ezweb.ne.jp   
明日山 080-6026-3109  
michinokunihongo@gmail.com

## ヒッポファミリークラブ

(英語はもちろん、いくつものことばを楽しみながら、話せるようになりたいと思いませんか?)

「八戸会場のご案内」お気軽にどうぞ!!

- 水曜日 15時半~17時 南部会館
- 金曜日 18時半~20時半 南部会館
- 土曜日 18時~20時 ユートリー
- 火曜日 18時半~20時 中居コミュニティセンター
- その他午前中も随時開催

<お申し込み・お問い合わせ>  
言語交流研究所ヒッポファミリークラブ  
☎ 0120-557-761



子育て支援センター「スマイルガーデン」



## カメイ歯科

八戸市六日町23(コンサートホールとなり)  
TEL 0178-22-0707

診療時間 平日 10:00~14:00 15:00~19:00  
土曜 10:00~14:00

- ・六日町パーキング券
  - ・共通駐車券
- を差し上げております。

# 八戸国際交流協会準会員募集！

八戸国際交流協会では、平成28年4月から、高校生・大学生の皆さんに直接、協会の情報をお届けする「準会員」制度を始めました。あなたも準会員になって協会情報をゲットし、一緒に国際交流を楽しみませんか？

- ◆年会費は**無料**で、いつからでも入会できます。
- ◆八戸国際交流協会の機関紙「りんぐりんぐ」や、当協会が開催するイベントのちらし等をEメールで直接お届けします。
- ◆協会活動に際し、学生の皆さんからアイデアを募集することもあります。
- ◆有料イベントの際の参加料は、一般参加者料金です。  
ただし、在籍する学校が団体会員の場合、協会員料金で参加できます。

## 【申込方法】

### 1 八戸国際交流協会HPからのお申込み <http://hachinohe-hira.jp>

トップページの準会員募集中バナーから準会員申込フォームを開き、必要事項を入力して送信してください。



このバナーが目印だよ！

こうみちゃん

### 2 Eメールでのお申込み [renkei@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:renkei@city.hachinohe.aomori.jp)

件名を「国際交流協会準会員申込」として、下記の必要事項をお知らせください。

- ①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号
- ④Eメールアドレス(添付ファイルが開けるアドレス)
- ⑤学校名・学年 ⑥卒業予定年月



## 編集後記

国際交流という言葉が縁遠かった団塊の世代にとっては、お祭り等で外国人がそばに来るだけで逃げていたことを思い出します。また授業で外国人から英語を教えてもらう、ということも皆無でした。今各学校での英語教育及び国際交流活動が盛んになっています。英語教育の先生曰く、今時の生徒は、留学生及び海外からの訪問団との交流には物怖じしなくなっているそうです。このような地元若者の異文化体験を、これからも応援します。

## 編集スタッフ

編集長：川崎 康一

編集員：亀井 圭子 田頭 順子 松田 朋恵



宗石 美佐 山谷 あかり 阿部 静香

マシュー・ボラ リトル 知里

発行・お申込み・お問合せ：

八戸国際交流協会（八戸市市民連携推進課内）

〒031-8686 八戸市内丸1-1-1

TEL 0178-43-9257 FAX 0178-47-1485

E-mail [info@hachinohe-hira.jp](mailto:info@hachinohe-hira.jp)

<http://hachinohe-hira.jp>

印刷：新光印刷株式会社

〒031-0813 八戸市新井田字鷹清水9-11

TEL0178-34-5331 FAX0178-34-6078